

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 北九州市立八幡小学校

① 学習指導案

プログラム	No.8 「 わたしたちのまちに言葉の贈りもの 」
単元名 (全15時間)	考えよう、地球の未来～SDGs～
学習のねらい	校区のまちづくりや地域行事の在り方に目を向け、疑問に思ったことについて調査・記録・分析する。そして、自分たちのまちに対する考えや魅力の伝え方について話し合い、発信する学習過程を経ることで、探究的な深い学びになるようにする。
学習内容	1 校区の魅力的な場所を調査する。 2 景観づくりに携わる人々の思いや願いを知る。 3 フィールドワーク等を通して得た情報を整理・分析する。 4 学習で学んだことや考えたことを発信する。
参考資料 準備品 実施場所等	タブレット端末、ワークショップ用のブース（パーテーションや模造紙、プロジェクター）写真用紙、台紙、プリンター

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
4 時 間	○通学路を見直し、校区の魅力はどこにあるか調査する。 ・フィールドワークを行い、実際に写真を撮る。 ・まちの写真を見て、その特徴について意見を出し合う。	○事前に通学路を見て回り、子ども達が興味をもちそうな場所等を把握する。 ○子ども達の意見は、比較、関係付け、順序付け等適したまとめ方で集約できるよう、指導する。（思考ツールの効果的活用）	○活動への関心・意欲 (行動観察、記述内容)
5 時 間	○疑問に思ったこと、もっと知りたいことについて調査する。 ・地域の市民センターと連携し、景観づくりに携わる人々の話を聞く。	○地域の市民センター職員と入念に打ち合わせし、子ども達の学習の意図が伝わるよう配慮する。	○表現力 (話し合い方、思考ツールの活用の仕方)
4 時 間	○情報を整理・分析する。 ・グループで話し合いながら、情報を集約する。	○思考ツールを効果的に活用できるよう適宜助言する。	○表現力 (発言内容、記述内容)
	○校区の魅力を発信する。 ・素敵だな、と思った景観を写	○発信する場を適切に設定する。 発表形式によっては教室以外の活	○表現力 (話し合い方、思

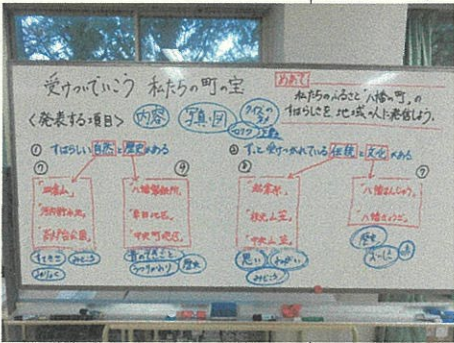
4 時 間	真に撮り直す。 ・将来、こんな景観になってほしい、というような、先をイメージしたイラストを添える。	用も考えられるので、その調整を行う。	考ツールの活用の仕方)
-------------	--	--------------------	-------------

<留意点>

- ・情報を整理、分析する際は、言葉だけでなく、図やイラストを用いてまとめるよう指導する。
- ・自分の考えを発信する際には、異学年の児童が参加できるよう工夫する。

② 事業実施報告書詳細

学校名 北九州市立八幡小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
4 時 間	教室、多 目的ルー ム	○校区の魅力はどこにあるか調査する。 ○自分達が住むまちには、皿倉山をはじめとした自然に囲まれていることを再認識した。 ○伝統ある商店街や、その周りで行われる行事について調べていく見通しをもった。 OGT（校区のまちづくり協議会会長）を招き、地域の伝統行事の由来等をお話しいただいた。 ○地域行事の背景を知り、様々な人が関わら合うことで、行事が成り立ち、引き継がれているということに気づいた。	 フィールドワークを通して発見したまちの魅力  OGT の話を熱心に聞く児童	

5 時 間	教室、多 目的ルー ム	○疑問に思ったこと、もっと知りたいことについて調査する。 ○都市再生企画課より講師の先生を招致し、北九州市が進める景観行政の取り組みについて学んだ。	 講師の先生の話に熱心に聞く児童	○自分達の校区が、将来どうなる見通しなのかを、CG等を交えた説明がとても分かりやすかった。
4 時 間	教室、多 目的ルー ム、体育 館	○情報を整理・分析する。グループで話し合いながら、情報を集約する。	○テーマごとに小グループを作成し、調べて分かったことをタブレットや模造紙にまとめる作業を行った。 ○まとめ終わった後は、5分程度で説明ができるよう、各グループで練習を行った。	○自分達が興味をもったことについてじっくり調べ、まとめることができた。
4 時 間	多目的ル ーム、体 育館	○校区の魅力を発信する。 ○将来、こんな景観になってほしい、という思いをまとめ、言葉にする。	 異学年の児童に向けて発表する様子	○自分達が興味をもったことについて聞いてもらえた。 ○質問もしてくれたので、自分達の発表が深まった。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 景観まちづくり学習を進めるにあたり、都市再生企画課の方や、地域のまちづくり協議会の方々と連携したこと。フィールドワークやタブレットを活用した調査だけでは不十分な点を効果的に補っていただけたことが、子ども達にとってとても価値があった。
(2) 実施にあたり苦労した点 ・他教科と合科的に学習を展開する上で、先を見通した学習計画の立案に時間を要した。 ・異学年と関わる上で、交流する場所や時間の調整に配慮した。

(3) 児童の反応

- ・自分達が気になったことについて、じっくり時間をかけて調べることができたので、とてもよかった。
- ・自分達が住んでいるまちのことを、誰よりも詳しく知ることができた。
- ・知っていると思っていたことが、フィールドワークや出前授業を通して、実はまだまだ浅いということが分かり、もっと調べたいという気持ちが高まった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・子ども達が、自分の興味をもったことについて熱心に調べ続ける姿が持続し、本取り組みが効果的だったことがよく分かった。
- ・合科的に学習を展開したことで、担任外の教員が指導に携わり、複数の視点から子ども達の学習をサポートすることができた。

(5) 今後の課題と取り組み (児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等)

- ・子ども達にとって身近で、且つ興味をもつ「まちの景観」をテーマについて、子ども主体で学習を展開できたことがとても有意義だった。調べたいことを効果的に補う形で、出前授業を位置付けられるよう、計画を立てる必要がある。